

第45回全国 sexuality 教育研究大会報告

熊本県 sexuality 教育研究会会長 今坂 洋志

大会前日は「LGBTs 啓発イベント」、大会1日目は全体会、2日目は「課題別講義」、「分科会」、及び「セクシュアリティ講座」を開催いたしましたのでご報告いたします。

《8月2日(日) 大会前日》 13:00~16:40

例年開催していた実践発表に替えて、「LGBTs(性的マイノリティ)」をテーマに次のとおり開催した。

『多様な性を生きる! ~気づいていますか?』

私のこと、あなたの近くにいる人のこと~』

ほとんどの実行委員が翌日の全体会場の準備にあたるため、鹿児島県 sexuality 教育研究会の山之口千佳会長が全体司会、会場設営及び運営を熊本県 sexuality 教育研究会担当者3名の他はLGBTs 自助グループ『ともに拓く LGBTIQ の会くまもと』の会員が担当した。

1 法務省委託人権啓発教材上映

『あなたがあなたらしく生きるために~性的マイノリティと人権~』 日高庸晴宝塚大学教授監修

2 記録映画上映 『Call Me Kuchu』

同性愛者への厳しい差別がある国ウガンダにおけるLGBTs 当事者の人権回復を求める活動の記録

3 LGBTs 性的マイノリティ当事者からのメッセージ

『20人に1人、気づいていますか? いま、あなたの横にいる人のこと... ~すべての人がともに尊重し合い、自分らしく生きていける社会を目指して~』

拓く会会員のLGBTs 当事者(レズビアン、ゲイ、トランスジェンダーMTF/FTM/FTX)7名からのメッセージ発表と



質疑が行われ、後の支援活動や啓発活動につながる大きな反響があった。

《8月3日(月) 大会1日目》

1 開会行事

文部科学省森良一教科調査官、大西一史熊本市長、県・市教委、関係諸団体他、大会開催にご協力いただいた多くのご来賓をお迎えして開催された。

2 『これからの学校における性に関する指導の方向性』

文部科学省学校健康教育課

教科調査官 森 良一



ご講演は「学習指導要領に基づく sexuality 教育の方向性」と「生きる力を育む小・中・高等学校保健教育の手引」に触れて、

小・中高の sexuality 教育でどのような sexuality 教育を想定しているかということなどについて学ぶことができた。今から sexuality 教育に取り組む方からベテランまで広く参考になるものだった。

昼食休憩時に全性連全国理事会在開催された。

3 基調講演

『学校における sexuality 教育の現在とこれから』

全性連理事長 石川 哲也

導入では sexuality 教育の歩みと基本的な考え方についてお話を聞いた。大変重要なことで、 sexuality 教育に携わる者にとって自己の実践を振り返るいい機会になった。 sexuality 教育の具体的な内容やイギリスの sexuality 教育では、 sexuality 教育実践を慎重に取り扱う必要性を痛感した。



4 記念講演『人間の性とは何か』

ハワイ大学教授 ミルトン・ダイヤモンド

通訳 大阪府立大学教授 東 優子

ダイヤモンド先生のご講演は東先生の最高の通訳で参加者にとってわかりやすいだけでなく内容の濃いものだった。まず、LGBTIQA についての基本的情報から始まり、人間の性行動の多様性まで、示唆に富む素晴らしい講演だった。例えば、「性別を変更する人々 TS/TG&DSD の D について、「Disorder は疾病障害は気に入らない。私は D を違い(Difference)と表現するならいいと思う」と言われたのが、「脱病理化」と重なってとても印象的だった。



《懇親会》

1日目終了後、アークホテル熊本城前にて、懇親会が開催された。会場には原田信志熊本大学学長を始め多くのご来賓、M・ダイヤモンドご夫妻他の講師の皆様、全性連役員の皆様とで120名を超える参加者となった。終始、和気藹々とした雰囲気の中、活発な交流や情報交換が行われた。



《8月4日(火) 大会2日目》 9:30~16:40

午前「課題別講義5会場」、午後「分科会5会場」、午前・午後を通して「セクシュアリティ講座」が開催された。

【課題別講義】

(1) 『学校における性教育の考え方、進め方～「学校における性教育」とは何か、何をどう進めるか～』

全性連絡協議会監事 堀内比佐子



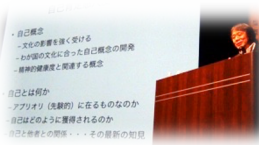
性教育の今日的課題を見据えて、「学校における性教育」をどのように考えれば良いかについてとてもわかりやすい講演だった。

また、「すべての教師で性教育を計画的、組織的に進めることの重要性や性教育の具体的な目標について考える機会となりとても勉強になった」という感想が多かった。

(2) 『養護教諭に求められる性教育推進の役割～構内の推進者として、授業者として～』

福岡県立大学教授 松浦賢長

養護教諭の特性を生かした性教育の進め方について



性教育の概論・方法論、学校における性教育の実践的な内容まで幅広い内容で充実したものになった。

(3) 『性教育に生かしたい生殖医学の最新情報～妊孕性、妊娠・出産適齢期～』

熊本大学医学部大学院准教授 大場 隆

熊本大学教育学部大学院准教授 秋月百合



大場先生から妊孕性に関わる生殖医学・周産期医療の最新情報を学ぶことができた。高齢妊娠の妊孕性や染色体異常の情報等を学校のどの段階

で、どのように扱うかを考えさせられた。

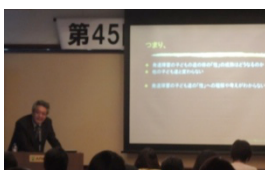
秋月先生は妊孕性に関する知識提供を学校の性教育の中で取り入れるために学習指導要領の指導内容の検討事項をもとに、情報の組み込みの可否について話された。授業化に関しては、中学校分科会で発表した大橋・太田隈の指導案作成・授業・授業分析まで、秋月先生・今坂と進めてきた。

(4) 『発達障害と性に関する支援

～わたしたちはどうすればいいのか～』

くまもと発育クリニック院長 岡田稔久

先生の発達障害に関する豊富な支援事例から、発達障害の本質を学んだ。また、多様な発達障害の子どもたちに対する個別の性教育の考え方について実践事例を通して考えることができた。



(5) 『性別（ジェンダー）承認をめぐる国際社会の動向』

大阪府立大学教授 東 優子



先生の講演はいつも受講者にとって知る楽しさを掻き立てられる。性の多様性の中から、性別承認について、そして日本における性同一性障害の現状と課題について、とりわけ性別変更の要件としている生殖腺切除手術の人権擁護からの意義申し立て、加えて国際的に「脱病理化」に向かっていることの意味と今後について興味深い話をいただいた。

【分科会】13:30～16:30 3会場5分科会
(1)「小学校における性教育の実践」

提案者：今村光代 宮崎県延岡市東海小学校養護教諭

提案者：嶋本健次、高崎涼子 熊本市立出水南小学校教諭

助言者：照屋博行 九州共立大学教授

司会者：赤塚悦子 宮崎県性教育研究会事務局長

宮崎県の今村先生からは、「自己肯定感を持ち希望に向かって生きる児童の育成をめざして」という演題で、6年間の系統性が図られた WYSH 教育の実践を報告していただいた。

嶋本・高崎先生からは WYSH 教育を取り入れた性教育の実践発表を報告していただいた。その基本的な考え方としては、健康教育全体の推進中で性教育もその一つとして進められているというものだった。

(2)「中学校における性教育の実践」

提案者：大橋勇一、太田隈美幸 熊本県性教育研究会

提案者：渡辺一信 東京都港区港南中学校校長

助言者：三浦康夫 全性連副理事長

司会者：藤田康子 奈良県性教育研究会会長

熊本県性教育研究会の大橋・太田隈からは、課題別講義3「性教育に生かしたい斉唱医学の最新情報」と関連して、「加齢による妊孕性の変化を「性教育のどこで・どの程度・どのように」扱うかについて授業研究の報告をした。

東京都港区立港南中学校 渡辺校長先生からは、教職員が一丸となって取り組む性教育の実践が報告された。「担任による性教育」「シナリオ型性指導案」という特色があるもので、全職員で進めるための工夫や配慮はどの学校でも学ぶ価値のある素晴らしい内容だった。

(3)「高等学校における性教育の実践」

提案者：山之口千佳 鹿児島県性教育研究会会長

提案者：坂梨京子 熊本県性教育研究会副会長

助言者：春山康久 宮崎県性教育研究会会長

司会者：井口一成 東京都性教育研究会会長

鹿児島県助産師会の山之口さんは泌尿器科医師と連携し、身体的性差を考慮した男女別講座が効果的だったこ

との報告だった。出前授業をするに当たって、学校における性教育がしっかりと捉えられている実践だった。

熊本県助産師会の坂梨会長からは「性についての学習の動機付け」と「性の当事者である自分の関心を引き出す内容」を中心とした性教育の実践報告があった。「生まれてきたいのちの意味を考え、いのちや体を大切に思い、大切にする方法を学ぶ」という言葉が印象的だった。

(4)「特別支援教育における性教育の実践」

提案者：竹内律恵 岡山県立早島支援学校養護教諭

白神恵子 岡山県立岡山東支援学校教諭

提案者：浦田裕之 熊本県私学特別支援相談員

助言者：水間宗幸 九州看護福祉大学専任講師

司会者：西村 亮 熊本県立菊池支援学校教諭

岡山県立西備特別支援学校での知的障害に発達障害を伴った生徒の個別支援や保健室経営の報告である。保健室を「心と体の休憩処」と捉え、「ホワイトボード恋愛相談所」など様々な工夫がとても参考になる実践だった。

浦田先生は私学の中・高・専修学校・各種学校を飛び回っている県内屈指の特別支援相談員である。先生の個々の児童生徒に応じた性に関する課題解決の指導助言が的確であるため、各学校で絶大な信頼を得ている。

(5)「児童養護施設、相談機関における性の課題と対応」

提案者：成松健太 『八代ナザレ園』 施設心理士

提案者：竹園利絵 熊本県子ども家庭福祉課参事

助言者：潮谷愛一 ルーテル大学名誉教授

司会者：和田登志子 熊本県児童相談所心理判定課課長

成松さんからは性被害が起き、性教育が必要であると考え、性教育委員会を立ち上げたことについて報告があった。性教育の効果、性教育継続のための推進体制の課題等についての報告は大変参考になるものだった。

竹園参事からは県で作成した『児童養護施設における性教育プログラム』についての報告があった。また、そのプログラムの中の「喜びの花束」の模擬授業があり、その後は活発な質疑が続いた。

【セクシュアリティ講座】 9:30~16:40

(1)セクシュアリティ講座 (午前)

『子どもや大人が学ぶ「LGBTフレンドリーな学校学級・職場」づくり』

ぶれいす東京前代表 池上千寿子

「この問題は少数派のために多数派が環境を整えてあげようということとは違うのではないか？LGBTフレンドリーとは何か？」という問いかけから始まった。LGBTの解



説のあと、文科省の4月30日の通知に触れ、「人権問題として捉えられているが、性問題でもあること」、子どもたちがこのまま

でいいと思えるために性教育はあると話された。学校はいろいろな点でジェンダーの縛りが大きいと感じるが、その中で、誰にとっても居心地のいい環境を自分の問題として長期的に目指していかなければならないという指摘が心に残った。

(2)セクシュアリティ講座 (午後)

《性の多様性を学び、児童生徒への支援のあり方を探る》

①『性同一性障害の基礎知識と医療の実際』

岡山大学大学院保健学研究科教授 中塚幹也

②『LGBT当事者の生きづらさと具体的な支援の留意点を考える』

宝塚大学看護学部教授 日高庸晴

③『セクシュアルマイノリティと法』

LGBT支援法律家ネットワーク弁護士 森あい

中塚先生の同性愛と対比させながらの性同一性障害の



説明は大変わかりやすかった。医療の実際についても事例を混じえながらの話は大変勉強になった。

日高先生は学校で同性愛と性同一性障害の区別がつかず、指導が混乱した事例を話された。どの学校でもあり得ることで、正しく知る機会を作ることの重要性を感じた。多様な切り口で具体例を混じえての話は学校等で活用できる実践的なものだった。

森先生からは性的マイノリティの法的な問題について話を聞くことができた。日本で同性婚はできないし、代替の法律もない。同性のパートナーシップの保障もなく、差別禁止法もないという同性愛者にとって、生きづらい環境であることを具体的な事例で知ることができた。

